



東京部会(第137回)・大阪部会(第87回)合同部会

日時: 2023年7月8日(土) 15:00 -17:00

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ+Zoomによるweb

参加者: 17名(慶応会場5名+zoom22名)

【内容要旨】

(1) 鈴木深氏(東京証券取引所)より「夏休み経済教室」の準備状況の説明があった。

6月中旬から受付開始。ちらしは14都道府県、9000カ所に送付。現在の申込数は、高校向け21日が会場44人、ウェブ73人、中学向け22日が会場43人、ウェブ58人である。昨年は状況が違うが、ウェブで一日150人近くの参加者がいたので、今後研究会などがあつたら働きかけをお願いしたい。7月20日に送付する「レインボーニュース」での告知の効果を期待しているとの説明があった。

(2) 新井(元目白大学非常勤講師)より、「韓国KDIとのインタビューと韓国の経済教育」の報告があった。

これは、6月29日(木)に韓国の政府系シンクタンク韓国開発研究院(KDI)メンバー3名の訪問を受けた内容である。質問は、ネットワークの活動内容と、HPに掲載されている教材に関するもので、篠原代表、加藤一誠先生と新井がそれぞれ回答した。

韓国の経済教育については、今年のメルマガ7月号で紹介された「チョコレートパイはなぜ1個目が一番おいしいのか?」と関連して、韓国の教育制度の「国家教育課程」と、その2015年改定での「統合社会」の新設、アメリカの経済教育の影響を強く受けている経済教育の特徴と最近の動向、それらをまとめた文献の紹介があった。

補足として、栗原久先生(東洋大学)から、2021年に韓国で開催された国際カンフェランスの紹介、日本証券業協会がまとめた韓国など世界の金融経済教育の実地調査の報告書の紹介があった。

(3) 夏休みの経済教室の準備状況の説明が行われた。

①プログラム設定の趣旨に関して篠原代表から説明があった。

現在の教科書は大学の経済学教科書のジュニア版で、生徒たちの腑に落ちるように書かれていない。今回のプログラムは、公共や公民の経済学習を通して、生徒が「なるほど、そうか。だから、こんな問題が起こったら、こう考えれば良いのか」という経済の見方考え方を身につけられるようにするには、どういう教え方があるか、専門家と現場教師のコラボでさぐるという趣旨であるとの説明があった。

<高等学校のプログラム>

②金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から、政府の教え方に関する準備状況の説明があった。

7月7日に行われた夏の教室の準備ミーティングで講演予定者中川先生とネットワーク側準備委員会メンバーと意見交換した。それを受けて、金子先生の担当するセッションでは、生徒がどうして政府のことを学ばなければならないのか、教員がどうして政府を教えなければいけないのか、それが腑に落ちるような授業提案をしたい、具体的には「公共」教科書のもくじから、ルールをキーワードとして、市場のプレーヤー以外の存在(政府)の作るルールまでたどり着くことで政府の役割を理解させる授業の流れを考えてみたいとの説明があった。

これに対しては、対人関係のルールと社会におけるルールは同じ言葉でも意味が違うので、同じ言葉のまだと先生方が混乱するのではないかという質問が中沖栄氏(清水書院)からあった。金子先生からは、大人の論理と子どもの論理は違うので、その違いを、授業を通して伝えてゆくようなものと考えてみたいとの回答があった。

③大塚雅之先生(大阪府立三国丘高等学校)から、金融に関する準備状況の説明があった。

講演者の鹿野先生とのコンタクトはまだ行われていないが、金融を金融として教えるのではなく、篠原先生からのアドバイスにあった、銀行の具体的な業務から広げてゆく構想を考えているという説明があった。生徒は、パーソナルファイナンスには関心を示しているため、そこからマクロのファイ



ナンス特に金融政策に関して、なぜ日本銀行を知る必要があるかが理解できるような授業構成を考えてゆきたいとの表明があった。

④杉田孝之先生（千葉県立津田沼高等学校）から、準備状況の説明があった。

講演者の中島先生とのコンタクトはこれからであること、腑に落ちるとは、生徒が学んだ事を母親や子どもにもわかるように説明できるまで徹底的に理解していることだと受け止めて、経済の概念は社会を観察するための道具であり、経済が理解できるようになるということは、問いがたてられるようになるということではないかという報告があった。これから中島先生の著書を参考に当日の質問、4コマ目の討論の準備をしたいとの発言があった。

⑤栗原久先生から、4コマ目の討論参加者としてのコメントがあった。

「経済教育のパラダイム」とチラシにあるが、パラダイムの共通理解がそれぞれの先生方にあるかどうかを改めて確認してみることが求められているのではないか。また、中川・金子先生のルールに関しては、学習指導要領の「公共」の解説にも書かれているので参照して欲しいとの発言があった。

<中学校のプログラム>

⑥行壽浩司先生（福井県美浜町立美浜中学）から準備状況の説明があった。

コメンテータの三橋先生との連絡がとれていること、地理分野の授業提案では、学習の様々な分野で経済がでてくることを伝えること、そのためには、ものから見えない社会を理解させたいこと、具体的にはスパイス、世界のマック、バナナなどが考えられることの説明があった。

他の視点として、地政学的なアプローチ、コストをキーワードとして環境決定論ではなく環境可能論から経済の視点を導入することなどを考えているとの紹介があった。

⑦小谷勇人先生（春日部市立武里中学校）から準備状況の説明があった。

当日発表予定の公民分野の現代社会論の部分の授業実践が紹介された。大阪万博を追究材料として、グローバル化、少子高齢化、情報化など4つの視点を入れた生徒の学習活動を実践中との報告であった。さらに、Googleでサイトを作り、そこに探究のための資料と、生徒の発表資料が共有できるような試みをしていることが紹介された。

当日のコメント予定者の野間先生（同志社大学）からは、公民分野の現代社会の部分は、教科書の執筆で苦労したこと、現場でもパスされてしまう部分の取り組みとして意欲的で驚いていること、あまり欲張りすぎない方がよいこと、70年万博との比較なども入れるとよいかもしれないとの事前コメントがあった。

(4) 全体として

当初予定していた参加の方々からの一言やこれまでの部会の補足的な検討ができなかったが、内容豊富で充実した部会ができたと思われる。

以上、記録と文責 新井

テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	新聞教材(NIE)
-------------------	--	--	---	-----------

次回開催予定：2023年9月30日(土)15時00分～17時00分 大阪部会と合同で対面とzoom会議

対面会場：未定

議題：夏休み経済教室の総括、教材提案など